

にはこよなくひきこし、廿一におはせしときに、内大臣になし奉り給ひて、我父伊周らせ給ひし年、長徳元年の事也、御病おもくなるきは内に參給ひて、おのれかくまかりなりてさふらふほど、此内大臣伊周のおとゞに、百官并天下執行の宣旨給ふべきよし申くださしめ給ひて、我は出家せさせ給ひてしかば、此内大臣殿を關白殿とて、よの人あつまり參りし程に、粟田殿道にわたりにししかば、手にすゑたる鷹をそらいたらむやうにてなげかせ給ふ一家にいみじき事におぼしみだれしほどに、そのうつりつるかたも、夢のごとくにてうせ給ひにしかば、いまの入道殿道その年の五月十一日よりして、よをまろしめし、かば彼殿いとゞむとくにおはしまし、程に、又の年花山院の御事いできて、御官位とられて、只太宰の權帥になりて、長徳二年四月廿四日にこそはくだり給にしか、御年廿三、いかばかりあはれにかなしかりし事なりなされどげにかならずかやうの事、我おこたりてながされ給べくもあらず、よろづの事身にあまりぬる人もろこしにもこの國にもあるわざにぞ侍なる、むかしは北野道真の御事ぞかしなぞいひて、はなうちかむ程もあはれに見ゆ、此殿も御さえ日本にはあまらせ給へりしかば、かゝることもおはしますにこそはべりしか、扱式部卿宮康のむまれさせ給へる悦にこそはめしかへされ給へれ、さて大臣になぞらふる宣旨かうぶらせ給ひて、あるき給ひしありさまもいと落居てもおぼえ侍らざりき、略中かゝれど、たゞ今は一宮康おはしますをたのもしき物におぼし、よの人もさはいへど、またには追従し、おち申たりし程に、今の帝後東宮朱雀さしつゝさむまれさせ給へりしかば、よをおぼしくづをれて、月ごろ御病もつかせ給ひて、寛弘七年正月廿九日うせさせ給ひにしぞかし、

〔古事談王道后宮〕後一條院未生給之間、萬人入夜參帥殿、伊周依爲主上條、一宮康叔父也、後一條院生給之後、其事都絶云々、